

復興絵馬 ～子ども達の心の復興支援プロジェクト～

プロジェクト代表者：近 藤 祐一郎¹⁾

プロジェクト参加者：亀 崎 英 治²⁾・篠 原 良 太³⁾・小 祝 慶 紀¹⁾

プロジェクト連携先：y.kondo@tohotech.ac.jp

Rehabilitation EMA ~ Support project for children's mind rehabilitation ~

Abstract

The project of Rehabilitation EMA was conducted by Shichigo Elementary School of Sendai and Tohoku Institute of Technology. EMA means a votive picture tablet of a horse, and Rehabilitation EMA is made of wasted corrugated cardboard. The purpose of this project is to rehabilitate children's mind by making Rehabilitation EMA. This activity is consist of 8 faces as follows: Lecture, Making EMA, Drawing wish on EMA, Exhibition in a school, Exhibition at public, Pray by Shinto priest, Burning EMA for sending wish to heaven, Making work books. As a result, 95.4% of children enjoyed this activity from a questionnaire research. It will be continued at Shichigo Elementary School and Kita-Rokubancho Elementary School on the year 2012.

1. 背景と目的

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に端を発する東日本大震災によって、東日本とりわけ宮城、福島、岩手の三県は甚大な被害を受けた。そして、この大震災は千年に一度と言われるほど未曾有の規模であったため、地域の復旧・復興には長期的・継続的な取り組みが必要となる。つまり、これらの取り組み主体者は大人だけではなく、将来の復興を担う子ども達もまた主体者であると考ええる。

このような背景から、本学と仙台市立七郷小学校（以下七郷小と略記）による復興絵馬プロジェクトを立ち上げた。本プロジェクトの目的は、廃棄ダンボールを使った絵馬づくりとそれに関連する各主体との連携、協働によって、未来の地域の復興を担っていく子ども達の心の復興をサポートすることである。

2. 仙台市立七郷小学校の概要

七郷小は明治6（1873）年に仙台市若林区荒井に開校された。仙台湾と市街地の間に開けた水田地帯であったが、荒井土地区画整理事業によって急速な都市化が進んでいる。更に、仙台市地下鉄東西線が平成26年に完成予定であり、それに伴ってマンションやアパー

1) 東北工業大学 工学部 環境エネルギー学科 准教授

Associate Professor, Department of Environment and Energy, Faculty of Engineering, Tohoku Institute of Technology

2) 仙台市立 七郷小学校 教諭

Teacher, Shichigo Elementary School of Sendai

3) 東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 准教授

Associate Professor, Department of Creative Design, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology

とも多くなってきている。平成23年5月1日現在の児童数は983人であり、仙台市立小学校では最も児童数が多い。

七郷小は市内でも比較的太平洋に近く海岸から約5 kmに位置する。学校は津波による被害を受けなかったが、自宅が被害を受けた児童もいる。また、仙台市内でも特に揺れが強かった地域でもある。このような背景から、震災当日から学区の避難所として使用され、2000人を越える住民が身を寄せていた。「教育よりも命を守ることを最優先に」という米倉校長の指示のもと、全職員が24時間2交代制で献身的に勤務した。また、地域のボランティアや自衛隊も懸命の作業にあたっていた。度重なる余震によって体育館の天井部分が破損し、3月末に使用不可能となるまで避難所となっていた。

3. 復興絵馬について

ダンボール絵馬は、2010年に仙台市立福沢市民センターで筆者らが企画した市民講座「ダンボール有効活用講座」で、ダンボールのリユースによる絵馬の制作は全国初の試みである。廃棄されたダンボールを用いて絵馬を制作し、表面には願いを絵で描き裏面には文章で書く。その絵馬を地域の神社で祈祷して頂き、市民センターや学校などで展示する。1月のど



図1 ダンボールをリユースした復興絵馬

んと祭でお焚き上げにし、願いを天に届けることまでを含めた一連の取り組みである。

ももとはこのような地域と連動した社会学習・環境学習の教材であるが、今回、震災からの復興を祈願する「復興絵馬」(図1)にリデザインした。使用したダンボールのなかには、救援物資の運搬に使われたものもある。震災当時、全国各地から心のこもった物資が多く送られてきたが、その物資を運んできてくれたダンボールにも心が込められていると考えたためである。

4. 活動内容

4.1. 絵馬の講義 (11月4日 金曜日)

七郷小では、総合的な学習の時間のなかで地域の復興に向けた「ともに立ち上がろう！七郷」を開始した。本プロジェクトはそのなかのひとつである。対象は5年生の4クラス158人である。



図2 復興絵馬の講義

まず、絵馬の歴史や意味に関する講義を行った(図2)。時間は10:45~11:30の45分間(3時間目)、多目的ホールでスクリーンに投影して講義を進めた。その後各教室に移動し、担任から下書き用の図案用紙を児童達に配付してもらった。図案用紙はA4タテに絵馬の表面と裏面を書けるようにした。下書きに際しては色鉛筆などで着色し、絵馬の制作日(11月16日)までに完成させてくる事とした。

4.2. 絵馬の制作（11月16日 水曜日）

絵馬の制作に関する説明と制作を行った（図3, 4）。時間は8:50～12:25の3時間35分間（1～4時間目）で、各組1時間ずつ行った。会場は図工室で、スタッフは七郷小の教員（各クラス担任、学年主任ほか）と大学からの教職員4名と学生スタッフ14人である。45分間のうち、初めの15分間にパワーポイントを使用して説明を行った。次いで残りの30分を使って絵馬の制作を行った。なお、時間が限られていること、切り出し時にカッターを使用できないことから、予め学生に5角形に切り出したパーツと、上部と下部に貼る紙を用意してもらった。当日はそれらの貼り合わせと上部への穴あけ、ヒモ通しの作業である。



図3 復興絵馬の制作



図4 復興絵馬の制作

4.3. 絵馬への絵付け（11月18日 金曜日）

絵馬への絵付けに関する説明と絵付けを行った（図5, 6）。時間は9:40～12:25の2時間45分間（2～4時間目）である。初めに多目的ホールで作業内容や注意点などについて15分間パワーポイントを使用して説明を行った。その後、残りの時間を使って各自自分の机で絵付け作業を行った。スタッフは七郷小の教員（各クラス担任、学年主任ほか）と大学からの教職員4名と学生スタッフ14人である。

絵具は水性アクリル絵の具を使用し、細部は不透明性マーカーを使用した。おおよそ12時頃には9割の児童が作業を終えることができた。各クラス2, 3名ほど未完成者がいたが、放課後等を使用して作業を続け完成させることができた（図7）。



図5 復興絵馬への絵付け



図6 図案用紙をもとに絵付けを行なう



図7 復興絵馬



図8 学内での展示



図9 学外(仙台市役所)での展示

4.4. 学内展示

全員の絵馬が完成した後、学内に展示した(図8)。横1m縦2mの衝立4枚に156枚の絵馬を掛け、多目的ホールに常設し児童全員が見られるようにした。また、授業参観日や来校者がある時には職員室の廊下に移した。なお、絵馬には制作者の名前は書かないようにした。これは、願い事というプライベートな事柄と個人が特定されることによって、いじめや差別といったマイナス要因につながることを避けるためである。

4.5. 学外展示

1月27日(金)から2月21日(火)までの期間、仙台市役所本庁舎1階ロビーにて展示を行った(図9)。この場所は多くの市民が行き来する場所であり、仙台市教育委員会や外国からの震災に対する励ましの手紙や千羽鶴、寄せ書きなど、多くの展示がされていた。この復興絵馬にも、展示

期間中多くの方が足を止めて見てくれたとのことであった（市役所担当者談）。



図10 七郷神社宮司によるご祈祷

4.6. 御祈祷

学区内の神社である七郷神社のご厚意により、3月9日（金）の15:00から15:30の間、七郷小学校の多目的ホールにてご祈祷が行われた（図10）。授業のなかでは行わず放課後に希望者のみという条件で行ったため、参加した教職員は7名、児童は42名であった。ダンボールで作成した絵馬も木製の絵馬同様に扱ってくれたことに対し、多くの児童が感動していたようである。

4.7. お焚き上げ

来年、2013年1月に行われるどんと祭で、復興絵馬をお焚き上げにしてもらう予定である。どんと祭は宮城県を中心に呼ばれる祭りの呼称である。神社の境内などで正月飾りを焼き、御神火にあたることで一年の無病息災・家内安全を祈願する祭で、宮城県の多くの地域では小正月の前日の1月14日夕方から行われる。子ども達の願いが天に届けるための活動であり、これを以って取り組みはひと段落とする。

4.8. 作品集の制作

展示期間の合間をぬって、制作した156個の絵馬を本学スタジオに持ち運び、クリエイティブデザイン学科の篠原研究室3年生が中心となって撮影を行った。そして全ての絵馬を掲載し作品集としてまとめた（図11）。今回参加してくれた七郷小の5年生全員と教職員全員、関係各所へ配布した。また、この制作と配付によって、より多くの方に復興絵馬を見てもらう機会が増え、2012年度は同じく仙台市の北六番丁小学校においても実施することとなった。より多くの学校に広がっていくことを期待する。



図11 作品集

5. 意識調査

本プロジェクトに対する11月末時点における児童達の意識調査を行い、本プロジェクトの効果や子ども達の心の癒し等について調査した。アンケートは選択式自由記述式を含め9問である。うち、選択式のQ1～Q4の回答を表1にまとめる。

Q1は制作前に行った絵馬の授業に対する理解度である。半数近くが「どちらかといえば分かった」と回答した。「分かった」の52人とあわせれば9割弱であり、絵馬に関する歴史や意味がほぼ伝わったと判断できる。しかし、「どちらかといえばいいえ」が8人、「い

表1 Q1～Q4に対する回答〔人（％）〕

	Yes	Soso Yes	Even	Soso No	No	Total
Q1 絵馬の授業はどれくらいわかりましたか	52 (35.1%)	79 (53.4%)	8 (5.4%)	8 (5.4%)	1 (0.7%)	148
Q2 絵馬をうまく作れましたか	39 (26.5%)	80 (54.4%)	11 (7.5%)	11 (7.5%)	6 (4.1%)	147
Q3 願い事をうまく絵に描けましたか	50 (33.8%)	66 (44.6%)	12 (8.1%)	16 (10.8%)	4 (2.7%)	148
Q4 取り組みは楽しかったですか	115 (77.3%)	27 (18.1%)	3 (2.0%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	149

いえ」が1人であり、原因を追究し次回の取り組みの際に改善したい。

Q2は絵馬の制作について「作れた」「どちらかといえば作れた」という肯定的な意見が8割に達した。このことから多くの児童たちがうまく制作できたことが分かる。しかし、否定的意見の合計については17人（11.6％）であった。およそ1割強の児童たちがうまく作れなかったと回答している。Q3は絵馬への絵付けについての質問である。ほぼQ2と同様の傾向が見られるが、否定的意見の合計が20人（13.5％）で若干多い。そこで、これらQ2とQ3のクロス集計を行なった（図12）。

図12から、うまく作れた児童ほどうまく描くことができ、逆にうまく作れなかった児童ほどうまく描けない、という傾向が読み取れる。特に、「全くうまく作れなかった」児童が「全くうまく描けなかった」と回答する割合は100％である。この結果から、

『作る』『描く』は別々な作業ではなく、むしろ同じと考えられる。今後、より肯定的傾向を高める上では両方の課題点を克服できる方策が必要である。

Q4は取り組み全体についての感想について回答してもらった。制作や絵付けに苦勞しながらも、95.4％の児童が肯定的意見であることから、全体的には好印象だったと判断できる。

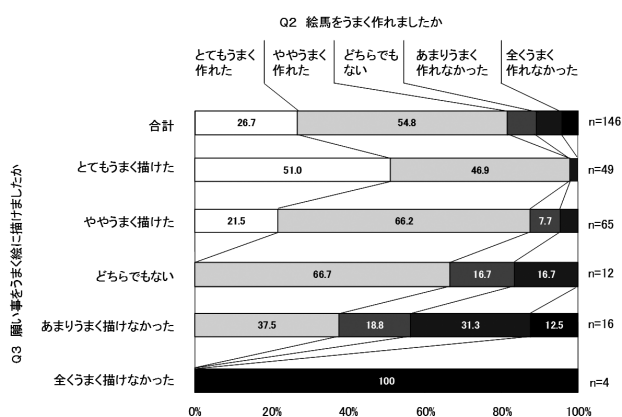


図12 制作と絵付けとのクロス集計

6. 展望と課題

子ども達の心のケアを目的に行ってきた取り組みであるが、取り組みへの様子や9割近くの子も達が楽しんでくれたことから判断すると、おおむね良好な取り組みであったと判断できる。しかし、心の問題はデリケートであり時間が必要である。劇的に変わらなくても、本取り組みがそのきっかけになれば至極恐悦である。なお、否定的な意見を持った児童が数名みられたが、彼らについては別途ケアを行なう必要がある。幸い仙台市立小学校には各校にスクールカウンセラーがいるため、担任や家族とも連携しながら進めていくことが望ましいと考える。また、そのための体制づくりも今後必要である。

また、平成24年度は、引き続き七郷小学校の新5年生を対象に行なうが、新に仙台市立北六番丁小学校の全学年、および仙台市立中野小学校5、6年生を対象に実施することとなった。また、この取り組みは仙台市福沢市民センター、仙台市福室市民センター、仙

台東照宮とも連携した取り組みである。少しずつではあるが、本取り組みが広く深く浸透しているようである。将来的には、他の被災地域でも実施していきたいと考えている。

謝辞 本取り組みの遂行にあたり、多大なるご理解とご協力を頂いた仙台市立七郷小学校5年生と教職員の皆様、仙台市役所様、七郷神社様、仙台福沢市民センターの皆様、篠原研究室3年生の皆様、近藤研究室4年生の皆様、東北工業大学新技術創造研究センターの皆様はじめ、関係者各位に厚く御礼申し上げます。